

第 1 問

解答

問 1	<input type="text" value="1"/>	②
問 2	<input type="text" value="2"/>	①
問 3	<input type="text" value="3"/>	①
問 4	<input type="text" value="4"/>	②

解説

問 1

正解は②。

食や健康に関するある指標を示した階級区分図を見て、指標名を選ぶ。高位の国の共通点を探っていこう。日本に関する理解も役立つ。

②は適当。高位の国のうち、サウジアラビアなどの中東諸国、北アフリカ諸国、ナミビアなどは「乾燥気候が分布する産油国」という共通点を持つ。穀物生産に不適な気候環境ながら、石油収入により十分な穀物を輸入できるため穀物の輸入依存度が高い。日本や韓国も高位であるが、ともに農家保護が不十分な工業国であり、先進国の中でも突出して（コメ以外の）食料自給率が低い。

①は不適當。栄養不足人口はサハラ以南の中南アフリカ（サブサハラ）に集中する。

③は不適當。1人1日当たりカロリー摂取量は、欧米先進国で高く、途上国で低い。なお、和食文化を持つ日本は先進国の中では比較的低い。

④は不適當。平均寿命は先進国で高位（日本は特に高い）、衛生環境や栄養状態の不足から乳幼児死亡率が高い途上国は低位となる。

問 2

正解は①。

ヨーロッパ、西アジア、アフリカの4地点における自然環境と農業の特徴に関する説明文の正誤を判定する。誤文に明確な誤りが含まれるので消去法でもよいだろう。

①は適当。ウクライナ周辺には肥沃な黒色土チェルノーゼムが分布し、世界的な穀倉地帯となっている。

②は不適當。乾燥帯のオアシス農業を象徴する作物はナツメヤシ。アブラヤシは熱帯性の作物であり、東南アジアが主産地となっている。

③は不適當。ウは赤道上に位置するため、年中高温多雨の熱帯雨林気候に属する。雨季と乾季が明瞭で高温のサバナ気候はその周辺に分布する。

④は不適當。大陸南端のケープタウン（南アフリカ共和国の港湾都市）周辺は、温帯で夏に乾燥し冬に湿潤となる地中海性気候である。南半球の地中海性気候区（工の他にオーストラリアのパーズ付近、チリのサンティアゴ付近）は頻出なので覚えておいた方がよい。

問 3

正解は①。

コーヒーと茶の1人1日当たり消費量を示す散布図からイギリスのデータを選ぶ。4か国とも決めることが重要である。

イギリスは①。イギリス人といえば紅茶を嗜む習慣がよく知られる。紅茶は（日本の緑茶と同種の原料の）茶葉を発酵させたもので、茶の栽培に適した旧イギリス植民地（インド、スリランカ、ケニアなど）でプランテーション栽培が発達した。しかし、アメリカ合衆国の喫茶店チェーンが進出した影響などで近年はコーヒーもよく飲まれるようになっている。

イタリアは④。イタリア発祥の抽出方法による濃厚なエスプレッソコーヒーが広く好まれる。

インドネシアは③。インドネシアは世界第3位のコーヒー豆生産国（2022年）であるが、生産量の半分以上が輸出されている。

中国は②。中国では茶葉を半発酵させた烏龍（ウーロン）茶がよく飲まれる。

問4

正解は②。

2 地域のイモ類における食品ロスに関する統計表を基にした文章の正誤を判定する。データの読み取りではなく、文章自体の整合性を問う内容であった。

②は不適當。高温湿潤の環境下では栽培サイクルが短く多毛作が可能であるため、収穫時期には幅があり「短期に集中」しない。高温湿潤の環境であれば、腐敗しやすくカビが生えやすいことが貯蔵段階でのロスを生む要因となる。

①は適當。先進国の消費者は食品に対して高い品質を求めるため、小売業者が生産者や加工業者に対して厳しい品質管理を課すことになる。なお、EU（ヨーロッパ連合）の共通農業政策でも、農産物に厳しい品質基準が設定されている。

③は適當。小売店は欠品（品切れ）による機会損失や顧客離れ、信用低下を恐れ、仕入れ数が過剰になる傾向がある。

④は適當。フードバンクは、企業や農家、商店などから、賞味期限が近いがまだ安全に消費できる食品、規格外品や外装の不備によって市場に出せない食品などの廃棄予定食品を収集し、貧困層や支援が必要な人達に提供する社会活動である。フードバンクは、食品ロスを削減し、生活困窮者を支援するという持続可能な目標に向けた取り組みとなっている。

第 2 問

解答

問 1	<input type="text" value="5"/>	②
問 2	<input type="text" value="6"/>	④
問 3	<input type="text" value="7"/>	⑤
問 4	<input type="text" value="8"/>	①

解説

問 1

正解は②。

新旧地形図の判読を基にした文章の正誤を判定する。判読内容こそ過去問と同じレベルだが、形式が面倒な組合せ式になっており注意が必要である。

a は正。旧図では「歩兵營（營）」「練兵場」となっていた図中央部の豊川沿いの土地が、新図では「豊橋公園」に変わっている。

b は正。旧図では桑畑が広がっていた飽海町の北側から豊川の間は、新図では畑、田、果樹園などに利用されており、宅地化はごく一部にしかみられない。

c は誤。新図の東新町の北に 8.8m の水準点、瓦町の北に 19m の標高点が読み取れる。よって国道 1 号線は北西から南東にかけておおむね上り坂となっている。

問 2

正解は④。

豊橋市における製造業の立地特性をまとめた資料に基づいた会話文の正誤を判定する。資料のすみずみまで注意して判断したい。

④は誤文。たしかに 2 地区とも主要道路沿いに分布しているが、「三河湾臨海地区」はその名の通り港湾に面して立地しており、海上貿易における利便性が最大の立地要因である。まために添えられた写真にも航行する船舶が写り、「海外自動車メーカーの流通基地も立地」の説明も貿易への依存を示唆する。

①は正文。1000 人以上のメッシュは 4 つあり、4000 人以上の従業員が集中している。これは総数の約 3.6 万人の 1 割 = 3600 人を上回る。

②は正文。他の地域にはそのようなメッシュの連続はみられない。

③は正文。「集積の利益（集積の経済）」のうち最も重要なものは、企業間の近接による輸送費や取引費用の低下である。他に、工程の結合による効率の向上、社会資本（産業インフラ）の有効利用などのほか、企業間の連携が深まることや、人材や情報の獲得が容易になることなども挙げられる。

問 3

正解は⑤。

東三河地域における 3 つの作物の行政区域別収穫量の推移を示した統計地図を判別する。各作物のもつ意義を想起したい。

キャベツはウ。1960 年の生産量はわずかであったが、2006 年には特に渥美半島で生産量が著しく拡大している（各グラフの縦軸のラベルにも注意）。天竜川などから導水する豊川用水の開通によっ

て水利が向上したことに加え、聞き取り調査で「大消費地へのアクセスが向上」とあることから名古屋圏の市場を背景とした近郊農業の発達に結びつけたい。この地域の農家は、単価の高い新鮮な野菜や花卉（電照菊が有名）を大消費地に出荷する輸送園芸農業に特化している。

米はア。日本では稲作が可能な土地ではそれが優先される傾向にある。しかし、大河川の存在しない半島部は水利が悪く、稲作農業のウエイトは低かった。

サツマイモはイ。ラテンアメリカ原産であるサツマイモの栽培は、近世になって救荒用（飢饉に備えるため）に導入されて全国に普及した。水の乏しいやせ地でも栽培が可能なため、火山灰地・台地・半島部などで盛んに生産された。しかし収益面では劣るため、用水完成後は他の作物への転換が進んだ。

問 4

正解は①。

東三河地域を発着地とした他府県との旅客数の統計表において、府県や交通機関を判別する。交通機関については迷いやすいだろう。

K は静岡。静岡県と東三河は長い県境で接しているだけではない。いずれも「東海道メガロポリス」と呼ばれる関東～関西を結ぶ巨帯都市の一部を形成し、資料 1 中の地図にも示されたように高速交通網で強固に結合された都市化地域となっている。とくに豊橋市と近接する浜松市とは、ともにかつては繊維工業、現在は輸送用機械工業が発達する一体化した経済圏といえる。そのため、企業間の取引、買い物、レジャー等を含めた人的交流がさかんである。一方、J の長野県とは内陸で県境を接しているものの、木曾・赤石両山脈の南部にあたる山岳地帯で、天竜川の渓谷沿いに JR の在来線（飯田線）が通るものの、高速道路・新幹線などの交通網は発達していない。

K は自動車。たしかに愛知県と静岡県には輸送量の大きい東海道新幹線が通っているが、豊橋駅や浜松駅などに「のぞみ」は停車せず、多くの利用客にとっては通過点に過ぎない（本問は東三河地域を発着点とした旅客に限定されていることに注意）。先述のような企業間の取引や買い物・レジャーなどを考えた場合、豊橋市と浜松市・湖西市を結ぶ国道 1 号線のほか、東三河地域（豊川市・新城市など）と静岡県を通る東名高速道路・新東名高速道路などを利用した自動車での短～中距離の移動が中心となる。また、比較的遠距離の大府との移動では鉄道が上回ることも矛盾しない。

第 3 問

解答

問 1	<input type="text" value="9"/>	③
問 2	<input type="text" value="10"/>	②
問 3	<input type="text" value="11"/>	③
問 4	<input type="text" value="12"/>	②
問 5	<input type="text" value="13"/>	②
問 6	<input type="text" value="14"/>	②

解説

問 1

正解は③。

世界の4地域における植生分布に関するグラフを判別する。「正規化植生指数」という聞き慣れない語句に惑わされないようにしたい。植物による光の反射を利用して、人工衛星によるリモートセンシングで得られるデータによって地表の植生の状況や農作物の育成状況、土地利用の変化を把握するための指標だが、注釈に「植物による光合成の活発度」とあるから、単純に「指数が高ければ植生の分布が多い」と考えて差し支えない。気候環境の他に標高などの地形的要素も考慮すると正答に近づくだろう。

線Aは③。■は高温多雨の熱帯であるギニア湾岸、□は不毛の乾燥帯であるサハラ砂漠にあたり、■では植物の生育がさかんで指数は高位だが、□に近づくに従って指数は低下する。地形的には長期の風化・侵食によって起伏がゆるやかになった楕状地などの安定陸塊である。次の②と取り違えないようにしたい。

線Bは②。■は高温多雨のガンジスデルタ、□は不毛の高山地帯であるチベット高原にあたり、線Aと同様に■で高位、□で低位となる。しかし、両者の間は急峻なヒマラヤ山脈で分断されており、南の低地では高温湿潤、北の高地では寒冷乾燥、と環境が極端に異なっている。地図帳でも確認してほしい。

線Cは④。■は大陸中央部の乾燥帯、□は東岸の湿潤な温帯である。森林の発達した温帯は大陸東縁のグレートディバイディング山脈から東に限られており、線Cの中央付近にあたる内陸部のグレートアーテジアン盆地などはステップ気候に属し、植生の薄い草原地帯である。

線Dは①。■は太平洋岸の海岸砂漠、□は高温湿潤のサバナ気候であるブラジル高原にあたる。海岸砂漠や■に近い変動帯のアンデス山脈の高山にはほとんど植生は見られないが、その東麓からブラジル高原にかけてはグランチャコやセラードなど、広く熱帯草原・熱帯疎林が分布している。

問 2

正解は②。

世界3か国の最高標高地点周辺の陰影起伏図を判別し、地形の説明文と組合せる。あまり難しく考えずに、シンプルに判断しよう。

Aはアフリカのナミビアで F。アフリカ大陸西南部のナミビアは、海岸砂漠のナミブ砂漠でも知られるが、問1の線A付近と同様に、先カンブリア時代の岩盤が長期の風化・侵食を受けて起伏がゆるやかになった楕状地が分布しており、起伏の最も乏しいAと結びつく。

Iはフィリピンで H。フィリピン諸島は、フィリピン海プレートがフィリピン海溝からユーラシアプレートの下に沈み込む狭まる境界に形成された弧状列島（島弧）の一種で、同じ弧状列島の日

本と同様に火山活動が活発である。そのため、火口状の地形をもつ山岳（ミンダナオ島のアポ山）が確認できるイに該当する。

ウはネパールで G。ネパールの最高標高地点は世界最高峰のエベレスト山だが、プレートの衝突によって生じた巨大な褶曲山脈の一部であり、イ図や富士山のような独立峰ではない点に注意したい。また、衝突帯では地震は多発するが火山は見られないことも重要で、過去の共通テスト（センター試験）でも扱われてきた。標高の影響で気温が低く、万年雪が山岳氷河となって、その侵食によるさまざまな氷河地形がみられる。近年では地球温暖化に関連して、山岳氷河の融解を要因とした氷河湖の決壊が懸念されている（氷河湖決壊洪水=GL0F の発生）。

問 3

正解は③。

エルニーニョ現象とラニーニャ現象に関する主題図の判別と、説明文の空欄補充との組合せ。頻出のエルニーニョ現象について正しく理解できていれば問題ない。

カは K。キは北。北上する寒流であるペルー海流が、低緯度海域の東風（貿易風）で南アメリカ大陸の沿岸から離れるように吹送されると、これを補うように深層の冷たい水が湧き上がる（湧昇流）。この影響で東太平洋赤道付近の海面は、平年において周囲の海域より冷たい。エルニーニョ現象とは、東風が弱まってこの海水温が上昇する現象が数ヶ月以上続くことである。なお、ラニーニャ現象はその逆にこの海域で平年以上に海水温が下がることをいう。

深層水に含まれる有機塩類が湧昇流によって海面近くに届けられると、プランクトンの繁殖が活発化するため、平年のこの海域はペルーやチリにとってアンチョビー（カタクチイワシ）漁の好漁場となっている。エルニーニョ（El Niño）とはスペイン語で男の子だが、この場合は大文字で始めた固有名詞で「神の子」イエスを指す。クリスマスの時期の季節現象として海水温上昇が起きて不漁になりやすく、ペルーの漁師は「神の子がくれるクリスマス休暇」と考えてこう呼んだ。しかし、これが数か月も続く「エルニーニョ現象」となれば、漁師の生活にも深刻な打撃を与える異常気象の問題となる。なお、ラニーニャ（La Niña）はエルニーニョの対義語でスペイン語の女の子である。

問 4

正解は②。

いくつかの国の浸水災害における被害に関するグラフについて、指標名と国名を判別する。人的被害は発展途上国で大きく、経済的被害は先進国で大きくなる一般的傾向から判断できる。

延べ被災者数はサ。日本のような先進国では、堤防などの治水・防災施設の整備や気象情報報道の発達などで被災者は相対的に少ないが、経済水準が高いため被害額は大きくなりやすい。近年の日本では大規模水害の発生が目立ち、多くの被災者が出ているように思えるが、図 5 の期間の日本における水害による死者・行方不明者・負傷者の合計は 1 万 8000 人ほどである（国土交通省『水害

統計調査』による)。図の出典における被災者数とは定義が若干異なるが、図の横軸の目盛りや単位にも注意してほしい（サの横軸は単位が 100 万人だから、「100」は 1 億人である）。

タイは Q。上のように考えれば、P は先進国で日本以上に経済的損失が大きいアメリカ合衆国、R はアジアの中でも特に貧しい発展途上国のバングラデシュである。アメリカ合衆国で 2005 年に大きな被害を出したハリケーン「カトリーナ」による総被害額は約 1350 億ドル（当時のレートで約 17 兆 5000 億円）といわれる（ただし高潮被害を含む）。バングラデシュでは、治水の遅れているガンジスデルタに多くの貧困層が集住しており、人口密度は日本よりもかなり高い。したがって延べ被災者数は 2 億人超と著しく多いが、経済水準の低さから総被害額は被災者数に釣り合わない。タイでは 2011 年のチャオプラヤ川氾濫による洪水で大きな被害を出したことが知られる。発展途上国の中では工業化の進んだ新興国であり、この洪水によって自動車工場などの製造業部門に大きな被害を生んだが、この洪水での死者は 800 名余りにとどまっている（少なくはないが相対的には特に多いといえない）。

問 5

正解は②。

地球温暖化について、いくつかの緯度帯における気温上昇の予測を示したグラフについて地域を判別する。「気温上昇の傾向は、海陸の割合などによって緯度ごとに異なる」「海氷に覆われた海は日射を反射するため、海氷面積の増減は気温上昇に影響を与える」などの問題文中の記述は、問題の難易度を調整するための大きなヒントであり、重視しなければならない。

北半球はチ。どちらの緯度帯においても、タに比べてチの方が上昇気温の高い面積の割合が高い。北半球と南半球では、海陸割合に大きな差があり、北半球のほうが陸地の割合が高い（海陸比は北半球では 4 : 6、南半球では 2 : 7）。陸地は海洋に比べて比熱が小さく熱しやすく冷めやすいため、地球温暖化において気温上昇の傾向が大きい。IPCC（気候変動に関する政府間パネル）の報告でも、過去数十年で陸地の平均気温は海洋の平均気温よりも高いペースで上昇している。

緯度 30～40 度帯は X。Y の緯度帯では、南半球に比べて北半球の上昇気温が著しく高い。緯度 80～90 度帯は極地であるが、北半球では大半が北極海に当たる。北極海を覆う海氷が温暖化で融解してその面積が減少すると、日射は氷面で反射されず暗色の海面で吸収される。これは温暖化における正のフィードバックとして働き、温暖化を促進すると考えられる。このような北極海の海氷面積の急激な縮小はすでに進行している。

問 6

正解は②。

津波への備えに関する GIS を利用した検討方法を示したフローチャートの模式図において、資料の重ね合わせによって推計できる値を判別する。共通テストらしい設問であるが、内容的には読解力と常識力の範囲内である。

マは a。津波浸水想定区域と人口分布を重ね合わせると、浸水想定区域内の人口が読み取れ、避難が必要な人口が推計できる。避難が間に合うかどうかは、避難場所までの距離等に左右されるので、この2つのデータからは推計できない。避難場所別の避難者数も、避難場所のデータがなければ推計不能である。

ミは c、ムは b。上記マのデータと避難場所からの特定の距離圏のデータを重ね合わせた場合、重なる領域に居住する（避難が必要な）人はその避難場所へ避難し、重ならない領域に居住する人は避難場所までの距離が遠いため、避難が間に合わない可能性がある。

第 4 問

解答

問 1	15	③
問 2	16	⑥
問 3	17	①
問 4	18	②
問 5	19	④
問 6	20	③

解説

問 1

正解は③。

3 か国の発電方式別の発電量増加率を示す統計表において国名を判別する。基本的かつ頻出の題材である。確実に正解したい。

日本はイ。2011年の東北地方太平洋沖地震による東京電力福島第一原子力発電所の爆発事故を契機に、全国の原発が稼働を停止し、その後は徐々に再稼働を進めているものの、発電量は大きく減少した。一方、これを補うために石炭・天然ガスの輸入を拡大して火力発電のウエイトを高めた。

中国はア。経済活動の急速な発展を支えるために、発電方式によらず発電量全体が大きく拡大している。とくに風力発電については、西部の草原地帯や、東部沿岸の洋上などで活発に開発を進めている。

ドイツはウ。ドイツでは上述の日本の事故などを背景に脱原発政策を推進する一方、地球温暖化対策として環境負荷の高い火力発電の低減も図り、これらを支えるために太陽光発電や風力発電などの積極的な導入を進めた。この結果、2023年までに全ての原発の稼働を停止し、さらに2035年までに再生可能エネルギーへの完全移行を目指している。

問 2

正解は⑥。

3種類の工業における原料の性質や製造過程による工業の立地特性について、工業の種類と立地特性とを組合せる。原料指数（特定の産地で産出される原料重量が製品重量に占める割合）という初見の指標に迷うことなく、製造過程の説明に基づいて論理的に判定したい。

醤油製造は C。特定の産地で産出される原料の大豆の重量に比べ、多くの水を加えて発酵させた製品の醤油は重くなるため、原料指数は1より小さくなる。江戸時代に、大市場である江戸や大坂に近い現在の千葉県や兵庫県に醤油産地が成立し、地場産業として現代に引き継がれている。

石油精製は B。資料中で製造過程について「～に分離する」とあり、特定の産地で産出される原油の重量と、製品であるガソリン・ナフサ・軽油・重油等の重量の総和はほぼ同程度であり、原料指数はおよそ1となる。

ワイン製造は A。特定の産地で産出される原料のぶどうの重量に比べ、これを絞って果皮や種子を除去した果汁を発酵させた製品であるワインの重量は小さくなるため、原料指数は1より大きくなる。多くのワイン醸造所はぶどう産地に立地する。

問 3

正解は①。

日本全国における繊維・衣服の生産・流通・販売の分布を示した統計地図（図形表現図）を判別する。卸売業と小売業との区別は入試頻出のテーマである。

製造品出荷額はカ。他の製造業に比べて付加価値が比較的低い繊維産業では、賃金コストの安い地方圏に立地が分散する。伝統的な繊維産業の基盤をもつ東海、北陸、山陽地方などに分布していることから判断する。

卸売販売額はキ、小売販売額はク。商業は大市場の存在する都市圏に多く立地するが、消費者対象の小売業に対し、他の企業を対象とする卸売業のほうが商圈は広く、そのぶん中心地機能の高い大都市への集積が著しい。例えば関東地方において、近隣の消費者を顧客とする小売業者は、東京だけでなく人口規模に比例して神奈川・埼玉・千葉などにも立地する。しかし、それら首都圏各県の小売業者を顧客とする卸売業者は、中心地である東京のみに事業所をおいてそこから配送するほうが合理的である。

問 4

正解は②。

4 か国における国際観光収支の推移を示したグラフを判別する。ヨーロッパにおける観光行動の地域性の特徴と日本における近年の観光産業の変容を理解していれば、4 か国とも判別できる。

ドイツは②、スペインは①。ヨーロッパでは、経済水準は高いが日照時間の短い北部の住民が、夏の晴天に恵まれる温暖な南部の地中海沿岸でバカンスを楽しむ傾向が明瞭で、観光客はイギリス・ドイツ・ベネルクス3国・フランス北部などから、スペイン・イタリア・フランス南部などに移動する。よってスペインでは観光収支は大幅な収入超過、ドイツでは支出超過となる。

日本は④。他の先進国から遠隔の日本では、長らくインバウンド（訪日観光）が少なく、一方アウトバウンド（日本人の海外旅行）は1980年代後半のバブル期に大きく拡大した。しかし、2010年代からは、円安、官民による誘致活動、観光ビザ発行要件の緩和、LCC（格安航空会社）の路線拡大などによって、経済成長の著しいアジア諸国からのインバウンドが急速に拡大した。一方、バブル崩壊後の長年の不況や日本人の所得水準の停滞、円安などの要因で日本からの海外旅行は停滞している。

タイは③。タイは東南アジア有数の観光国として欧米からの来訪客を多く受け入れているが、多くの国民の所得は先進国の水準には達しておらず、タイからの海外旅行はまだ少ない。

問 5

正解は④。

ファブレス企業におけるサプライチェーンを示した模式図をもとに、これを説明する文章の正誤を判定する。今や教科書用語となった「ファブレス」は知らなくても、問題内容の中で把握できるだろう。

④は不適當。ファブレス（＝工場を持たない）企業が、製品の製造を外部企業へ委託する主な要因は設備投資や人件費などのコスト削減のためである。スマートフォンのような部品も製品も小型軽量で、価格に占める輸送費の割合が小さいハイテク製品（中でも部品段階）では、市場への近接性は立地の主要因とはならない。消費市場から多少遠くても、安価な労働力を利用できる国の EMS（エレクトロニクス受託製造サービス）企業などに製造を委託する。

①は適當。上述のようにファブレス企業とは製造部門を切り離れた企業のことである。

②は適當。ファブレス企業は、付加価値の高い部門に経営資源を集中させることで高い収益を得ている。

③は適當。EMS 企業やファウンドリ（半導体製造の受託専門企業）などは、いくつもの発注元から委託を受けることで、生産規模のメリットを活かした合理化を図り、コストを削減する。

問 6

正解は③。

日本、アメリカ合衆国、中国におけるいくつかの産業部門の貿易における最終財と中間財の貿易収支を示す統計表について。国名と産業名を判別する。注釈より、正の値は貿易黒字（輸出超過）、負の値は貿易赤字（輸入超過）であることはすぐに分かるのだが、中間財・最終財の差に惑わされると問題の趣旨が見えてこない。以下のようにシンプルに考えた方がよい。

アメリカ合衆国はシ。世界最大の消費市場をもつアメリカ合衆国では、多くの工業製品について輸入超過である。一方で、「世界の工場」として大量の工業製品を輸出する中国はサ。多くの製造業部門で輸出超過である。

輸送機械は J。輸送機械の主要品目は自動車であり、自動車は日本の代表的な輸出品目であるから、その貿易収支は黒字である。一方で、かつては国内での製造もさかんだった家庭用電気機械(K)については、安価な労働力を用いるために製造拠点をアジア諸国に移転したため、そこからの輸入に依存するようになった。

なお、中国の輸送機械貿易（サの J）について最終財がマイナス（貿易赤字）となっているが、世界の自動車産業の変化のスピードは驚異的で、やや「時代遅れ」の設問となってしまった。本問の統計年次 2019 年以降、中国では従来の内燃式ガソリン車に加えて、バッテリー式電気自動車（BEV）やプラグインハイブリッド車（PHV）などの生産・輸出が急増し、一方で自動車輸入は減少傾向にある。そのため現在では輸送機械の最終財についても大幅な貿易黒字になっているので注意したい。

第 5 問

解答

問 1	<input type="text" value="21"/>	②
問 2	<input type="text" value="22"/>	①
問 3	<input type="text" value="23"/>	④
問 4	<input type="text" value="24"/>	②
問 5	<input type="text" value="25"/>	③

解説

問 1

正解は②。

三大都市圏と地方圏における工業用地面積の推移と背景を示す資料について、グラフの判別と空欄補充を組合せる。日本の産業について歴史的な経緯を含めた基本的な理解を要する。

三大都市圏は A、アは k。1970 年代の石油危機を契機とした産業構造の高度化を背景に、それまでの高度経済成長期に三大都市圏を含む太平洋ベルトの臨海部で発展した金属・化学など基礎素材型工業は地位が低下し、三大都市圏の工業用地は他の用途に転換していった。代わって成長した加工組立工業は、小型・軽量の高度な工業製品を生産するため、その立地は地方圏における高速道路のインターチェンジや空港の周辺に開発された工業団地などに分散した。

問 2

正解は①。

首都圏の 2 つの市区における新旧の人口ピラミッドについて、その時期や地域の特徴について判別を組合せる。ニュータウンにおける人口構成とその変容は頻出である。

2015 年はカ。カでは D・E とともに老年人口の割合が高くなっているため、これが新しい時期を示すとわかる。都市部も含め日本全体で著しい高齢化が進んでいる。

D は x。x の文が説明する住工混在地区では、かつては工場労働者を中心に若年の労働者の転入が多かったが、現在では工場跡地の再開発によるマンション建設もあって 30~40 歳代の人口がボリュームを高めているが、少子化の進行でその子ども世代の人口は少ない。一方、y の文が説明するニュータウンには、働き盛りの夫婦とその子どもからなる核家族が一斉に入居したため、開発当時のピラミッドには 30~40 歳代と 15 歳未満の 2 つの山ができる。それから 25 年後に、上の山は徐々に人口を減らしながら加齢していくが、下の山は就職などを契機に親元を離れて利便性の高い都心近くに転出するため人口規模が大きく減少する。

問 3

正解は④。

3 か国の製造業割合と都市人口率との相関を示すグラフにおいて、国名を判別する。都市人口率に関する基本的な理解だけでも判別可能である。

イタリアはシ。ヨーロッパでは工業化・都市化の歴史が古く、早い時期から都市人口率は高めだが、一方で EU の共通農業政策などによって農家も保護されており、農村人口も一定程度を維持している。先進国では共通してサービス経済化が進んでおり、製造業の割合は低下傾向にある。

オーストラリアはス。新大陸ではとくに都市人口率が高い。ヨーロッパからの入植者が沿岸部に都市を建設して集住する一方、内陸部で展開される農牧業は企業的で、農村人口は極めて少ない。

また、国内市場の小さいオーストラリアでは、ヨーロッパの先進国に比べて製造業の発達が遅れており、近年は観光業などのサービス業の割合が大きくなっている。

韓国はサ。アジアの集約的農業地域では農村人口の割合が高く、都市人口率は低位であったが、日本では1960年代、韓国では70年代の高度経済成長で都市への大規模な人口移動が生じた。韓国における「漢江の奇跡」とよばれる経済成長は、輸出向け製造業の発展に支えられた。

問4

正解は②。

日本の情報関連3業種における従業者数に関する統計表を判別する。日本のメディア状況などへの関心度によっては難易度が大きく上下するだろう。

出版業はタ。書籍の出版には、著者とのやり取りなど人間活動を伴う情報の集積が不可欠であり、大都市である東京への指向性が高い。しかし、インターネット時代における活字文化の衰退から全国的には従業者が大きく減少している。

新聞業はツ。最近の流行語でいえば「オールドメディア」の新聞業であり、出版業と同様に全国的には衰退傾向であるが、地方紙（ブロック紙）や、全国紙の地方発行本社・支局なども存在するため、出版業に比べると従業者は地方にも分散する。

ソフトウェア業はチ。業務用はもちろんのこと、PCやスマホなどの普及で個人向けにも製品の需要が高まっており、全国的に従業者は増加しているが、主な顧客である企業や、ソフトウェア開発に携わる人材は東京に集中しており、産業としても東京に集積する。

問5

正解は③。

世界都市ロンドンにおける人口・労働に関する指標を示した統計地図（階級区分図）に基づいて、会話文の正誤を判定する。誤文の判定自体は難しくない。

③は誤文。失業率の高い地域はインナーロンドンの内外にまたがって不規則に分布しており、同心円状の分布は読み取れない。

①は正文。高度業務に従事する労働者は比較的高級な住宅街に居住すると考えられるが、失業率の高い地域は比較的低級な困窮者の多い住宅街に分布するだろう。

②は正文。近年のイギリス経済は、専門的で高度な技能を持つインド系などのエリート的な移民労働者が牽引しているといわれる。2022年にはイギリス初のインド系総理大臣（スナク氏）が誕生した。高度業務の従事者・外国生まれの人の両方が高い地域は、インナーロンドンに集中している。

④は正文。ドックランズは船舶の修理施設であるドックが並ぶテムズ川沿いの港湾地区であった。他の交通機関の発達や、船舶の大型化に対応できないことなどから港湾としての役割が衰退すると、ドック・倉庫・造船工場などの跡地でウォーターフロント（水辺の地域のこと）の再開発事業が進められた。

第 6 問

解答

問 1	26	④
問 2	27	①
問 3	28	②
問 4	29	⑤
問 5	30	②

解説

問 1

正解は④。

地図中の 4 地点からサイクロンの上陸頻度が最も低い地点を選択する。サイクロンや台風のような熱帯低気圧の発生条件を理解したい。

サイクロンの上陸頻度が最も低い地点はエ。熱帯低気圧は、海水温 26~27℃以上の高温の海洋上で湿った風が渦巻き状に吹き込み、上昇して雨雲を形成することで発達する。ただし、赤道付近では転向力（コリオリの力）が働かないため、渦が形成されず発達しない。熱帯低気圧は赤道から緯度で 5 度以上離れた海域で発生し、発生後は、貿易風に乗って西へ移動し、偏西風によって東へ向きを変えながら高緯度方向へ進む。このため、赤道上のエ地点には上陸し得ない。

問 2

正解は①。

地図中の 4 地点から、稲作で天水田が利用される地域として適当でないものを選択する。おもに気候の特徴から判断できるだろう。

適当でない地点は A。A はパキスタンのインダス川流域である。パキスタンの多くの地域は乾燥または半乾燥気候に属し、年間降水量が非常に少ない。パンジャブ地方などの主要農業地帯では、年間降水量が 100~500mm 程度であり、天水に依存した稲作で必要な約 1000mm には全く届かない。この地域の農業はインダス水系の灌漑システムを利用することで成り立っており、地下水の汲み上げなどによって雨季の稲作と乾季の小麦・綿花を組合せた二毛作がみられる。

B は適当な地点。ラオスとタイの国境を流れるメコン川流域であり、サバナ気候が分布し、年降水量は 1500~1600mm に及ぶ。

C は適当な地点。インドネシアのカリマンタン島南部であるが、熱帯雨林気候のもとで熱帯収束帯の影響によって年降水量は 2000mm を超える地点が多い。

D は適当な地点。マダガスカル島北部であるが、インド洋から吹き付ける南東貿易風によって大量の水蒸気をもたらされる。赤道から離れているが熱帯雨林気候が分布することに注意したい。

問 3

正解は②。

インドなど 4 か国間の貿易や人的交流を示した流線図中の国名を判定する。キとクを正しく判別したい。

アラブ首長国連邦（UAE）はカ。UAE やカタールなどのペルシャ湾岸の産油国では、石油以外の産業を開発するために都市建設に注力しているが、不足する建設労働力としてインドなど南アジアから多くの移民を受け入れている。移民数の図で、インドからの矢印が太いカに該当する。輸出額の

図においては UAE の原油、インドのダイヤモンド・工業製品などがやり取りされており、矛盾しない。

インドネシアはク、シンガポールはキ。輸出額の図で両国を見ると、キからの輸出額のほうが大きいことがわかる。シンガポールは高度な技術を持つ工業国であり、周辺諸国に多くの工業製品を輸出している。また、東南アジアの国際分業のハブ（中軸）として、中継貿易における再輸出品も多い。シンガポールからインドネシアへは、電気機器や電子部品、化学製品などの高付加価値製品が輸出される。一方、インドネシアからの輸出品は鉱物資源などの一次産品（最近ではインドネシア政府による規制で鉱物の輸出は低迷している）や安価な労働力を活かした繊維製品などに限られるため、両国間では大きな貿易不均衡が生じている。

問 4

正解は⑤。

地図中の 3 か国と、それらにおける宗教や言語に関する説明文とを組合せる。地誌の民族問題については、個別の知識が不可欠なので適宜整理しておきたい。

F（タンザニア）はス。東アフリカのタンザニアやケニアでは、インド洋における帆船を利用したアラブとの交易の歴史を背景に、現地のバントゥー系言語に多くのアラビア語の語彙を加えた商用語としてスワヒリ語が発達した。スワヒリ語は両国の公用語であり、周辺地域の共通語である。

G（インド）はサ。かつてのムスリムによる帝国とはムガル帝国を指す。現在では国民の大多数がヒンドゥー教徒であり、ムスリムは少数派となっている。しかし、少数といっても総人口 14 億人の約 14% を占めており、すなわち約 2 億人のムスリム人口を有する。近年はヒンドゥー至上主義（ヒンドゥー・ナショナリズム）が強まっており、国内での民族対立が激化している。

H（ミャンマー）はシ。ミャンマーの多数派は上座仏教を信仰するが、西部のロヒンギャ人はムスリムであり、近年は仏教徒によるムスリムへの差別や抑圧が強まっている。ミャンマー当局による民族の存在を否定するような動きに対して、ロヒンギャ人は難民となって隣国バングラデシュに流出している。

問 5

正解は②。

モーリシャスとモルディブに関する資料をもとに、説明文の正誤を判定する。多くの受験生は小さな島嶼国にまで学習が及んでいないだろうが、本問の判定のポイントは細かい地誌ではなく、資料に示された情報を基本的な知識にあてはめて考察することに過ぎない。

②は不適当。モーリシャスの「主な宗教」の欄にはヒンドゥー教とある。ヒンドゥー教はインドの民族宗教であり、インドの旧宗主国はイギリスである。そのため、世界各地の旧イギリス植民地には印僑と呼ばれるインド系移民が多い（マレーシア、ガイアナ、フィジーなど）。当然、モーリシ

ヤスでもイギリスの統治期にヒンドゥー教を信仰するインド系移民が導入されたのである。下線部の基本的知識があれば、「フランス統治期」の誤りに気づけるだろう。

①は適当。サトウキビの生産が「主な産業」の製糖業に結びつく。

③は適当。地球温暖化は海水温の上昇を招き、海水の膨張による海面上昇が懸念されている。

④は適当。中国の一带一路構想は、中国を起点にアジア～中東～アフリカ東岸～ヨーロッパを結んで、ゆるやかな経済協力関係を構築するもので、陸路の「一帯」（シルクロード経済ベルト）と、海路の「一路」（21世紀海上シルクロード）からなる。経済政策、インフラ、投資・貿易、金融、人的交流の5分野で、交易拡大や経済活性化を図っており、アジアインフラ投資銀行（AIIB）を通じた中国から関係国への融資が行われている。